



活動報告書

「フンボルトペンギン受精卵の運搬」

ペンギン類類別調整者

日本の動物園水族館で飼育されているフンボルトペンギンは、世代を重ねて、現在では次第に近親繁殖せざるを得ない状態の飼育園館が増加しつつある。そこで、この種の保存のために、それぞれの飼育園館が新しい家系を導入して、近親化を防止することが急務となっている。導入方法として、受精卵の移動がもっとも好ましいが、卵を保温しながら運搬するのに適した用具がなく、専用の卵輸送箱を作成し、フンボルトペンギンの血液更新に役立てる。

助成を受け手作成した携帯用孵卵器は、助成対象期間中(2001.9.1～2002.8.31)には、フンボルトペンギン受精卵の移動が行われなかったため、活用されなかった。しかし、2001年7月にイワトビペンギン受精卵を登別マリパークから東京都葛西臨海水族園へ輸送する際、一部の経路で利用された。

〔作成した機材および仕様〕

昭和フランキ製携帯用孵卵器(コウノトリ卵仕様を変更した受注生産品)

- ・電源 DC12V、ヒーター10W、ファンモーター3W
- ・入卵個数 6個(転卵装置なし)
- ・電子温度調節器付き(調節ダイヤル付き)
- ・サイズ 28×23×35cm、約7.5kg
- ・携帯用手提げバック付き
- ・その他付属品：バッテリー、AC電源アダプター、バッテリー充電器

\* バッテリー、バッテリー充電器は、助成金以外の資金で購入した。



携帯用孵卵器。



孵卵器の内部と手提げバッグ。

〔活動成果が下回った理由〕

助成対象期間中に受精卵の移動に携帯用孵卵器が使われなかった理由として、  
(1)フンボルトペンギンがCITES附属書 I 表記載の動物であるため、派生物となる卵の移動についても環境省との協議が必要であり、手続きが煩瑣であること  
(2)受精卵を搬出・搬入するのに適当な組み合わせの園館がなかったことが考えられる。

#### 【今後の取り組み】

1. 今回の助成活動については、種保存会議ならびに種保存委員会経過報告書または種保存委員会活動報告書に記載する「フンボルトペンギン繁殖計画」の中で、また国内血統登録申請依頼書の中などで報告する。

2. 積極的に受精卵の移動による血液更新を訴え、作成した携帯用孵卵器を利用するよう勧める。フンボルトペンギン以外の他種ペンギンの受精卵移動にも利用可能であることも伝えていく予定である。

**[閉じる]**